湊中

問題解決的な学習を通しての主体的・対話的で深い学びの研究

～展開部分での学習活動の工夫～（３年計画の３年次）

校長　　川村　隆憲

１　研究主題について

新しい学習指導要領では、教育課程全体や各教科などの学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力など」「学びに向かう力、人間性など」の三つの柱からなる「資質・能力」を総合的にバランスよく育んでいくことを目指し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を重要視している。

昨年度本校では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、まとめ・振り返り場面における評価の工夫をテーマとして研究と実践に取り組んできた。はじめはどのように進めていくよくわからないところがあったが、講演を聴いて徐々に、毎時間であったり単元であったりと様々な場面においてより具体的な取り組み方を学ぶことができた。生徒に「まとめ」「振り返り」をさせることで生徒の理解度を確認し疑問点を知ることができた。

本年度は３年計画の３年目となる展開部分での学習活動の工夫について研究し、授業改善及び学習指導に生かしていきたい。

２　研究のねらい

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、展開部分での学習活動を工夫した授業づくりに取り組むことで、問題解決的な学習の充実を図り、各教科等で目指す生徒の資質･能力の育成を目指す。

３　研究仮説

各教科等で、授業の展開部分での学習活動を工夫すれば、生徒への指導に生かし、学習することへの意欲を高めることができる。

４　研究内容

(1)　単元で育成を目指す各教科で考える資質・能力を明確化

①　各教科の年間指導計画に単元ごとに３観点の評価規準を明記する。

②　各単元で最低１時間は問題解決的な授業を行う。

(2)　展開部分での学習活動の工夫

①　思考・判断・表現する場面を設定する。

②　ICT 機器を効果的に活用する。

(3)　校内研チェックシートによる教師の自己評価（Plan Do Check Action）

①　月ごとに校内研チェックシートを活用して自己評価を行う。

②　学期に１回、生徒から授業アンケートをとる。

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者　等	全体会等
4	5	・今年度にかかわる研究主題の共通理解	全体会（共通理解）
4	１９	・校内研の流れについて ・指導課訪問に向けて	全体会（共通理解）
5	15-19	・指導案検討会	各教科ごとで話し合い
6	2	・教育指導課訪問（課題と対策）	各教科ごとで話し合い
１１	２２	・展開部分での学習活動の工夫について	全体会（実践発表）
1	２２	・授業参観週間（～２６日）	各教科ごと
1	３１	・今年度の成果と課題について	全体会（共通理解）

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要　等
5	15-19	・NRT 分析/考察
7	１１	・講義（展開部分での学習活動の工夫）講師　馬渡正仁
8	２１	・小中 JS 講演（脳の成長に適した教育法と学力を伸ばす生活習慣） 講師　大黒達也
１１	7	・キャリア教育講演（夢見る力・夢を形にする力）講師　土屋敏男
1	３１	・講義　（特別支援教育の視点を取り入れた授業作り）講師　青木拓哉

６　研究の成果

本校ではペア学習やグループ学習、ICT の活用など展開部分で様々な工夫をしてきた。生徒の習熟度はかなり差があるが、これらの工夫によって多くの生徒が進んで授業に参加し、自分の考えを深め、表現できるようになったり、学習意欲を高めることができるようになったりした。

７　研究の課題

教師が授業の内容を深めるためにいろいろな工夫をしているが、思うように学力向上につなげられない面がある。やはり授業だけでは限界があるので、いかに授業で内容に興味をもたせながら、家庭学習につなげていくかの手立てを考えていく必要がある。

（記入者　　坂井　恵美子）